

標 題 : The Mediterranean Diet as a Source of Bioactive Molecules with Cannabinomimetic Activity in Prevention and Therapy Strategy
予防と治療の戦略でカンナビノイド類似作用のある生物活性分子としての地中海食事

著 者 : R. Vago, et al. (イタリア ミラノ IRCCS San Raffaele Scientific Institute
泌尿器研究所 実験腫瘍学科)

掲 載 誌 : Nutrients. 2022 Jan 21; 14(3): 468.

要 旨 :

内因性カンナビノイド システムは複雑な脂質シグナル伝達ネットワークで、それは生命体にとって恒常性増進経路の主要調節因子として進化した。

それが多くのプロセスに関与することが、メタボリックシンドローム、肥満および他の生活習慣病に関する薬理学的研究にとって非常に適切な対象を提供してきた。

カンナビノイド類似性の分子は幅広い種類の食品で見いだされ、その大部分は地中海食事に通常存在する。

これらの化合物の大部分は、テルペンおよびポリフェノールの部類に属する。

それらがカンナビノイドレセプターCB1 および CB2 に対して必ずしも直接反応しないと知られているが、その発現水準を調節する能力は疾患関連モデルで既に示されており、そしてシステムの他の成分の活性を調節する能力も示されている。

この総説で、植物性カンナビノイドの食事摂取は実際に疾患予防のための実行可能な戦略となって健康状態の維持に役に立つ可能性があるという、着想を裏付けるために証拠を収集した。

個人向け栄養が現実性を高めている時代では、新しい治療標的を持つことは重要な資源となり得る。

キーワード : 地中海食事、内因性カンナビノイド システム、個人向け栄養、フェノール、テルペン
